

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ふじの花荘
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	山形県鶴岡市藤の花1丁目18番地の1
記入者名 （管理者）	澁谷 泉
記入日	平成 20年 7 月 27 日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「快適な環境で生活リハビリを継続し、趣味や地域行事への参加をしながら楽しく過ごしたい」を理念として上げ、全員で取り組み、生活習慣を継続しながら、住み慣れた地域の中で地域の一員であることを目指していくような理念を作成している	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度初めの運営会議や毎月の会議で、随時、再確認を行いながら取り組んでいる。なお、事務室内の壁面に提示して、質の確保に努めている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者・家族に対して、入居契約時に契約書・重要事項説明書と共に説明を行っている。加えて、毎月、家族宛に発行している便りに掲載して周知し、地域の方々に対しては、2ヶ月に1回の運営推進会議での周知を行っている	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎年、近隣の小学校との花植えの交流会や職場体験実習の受け入れを行っている	○ 今後は、外出する行事の付き添いにボランティアの受け入れを募り、付き添いを機に日常的な付き合いができるように取り組んでいきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の自治会や行事への参加は、行っていないが、運営推進会議の中で、町内会や民生委員等に伝え、地域行事への参加を検討している	○ 今後は、入居者の反応を見ながら、地域活動への参加を検討し、地域の一員として過ごして頂けるよう取り組んでいきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は、認知症についての内部研修会で講師役を務めている。また、毎月の会議の他、日常の業務中で地域への参入を検討しているが、具体的に実施はしていない	○	今後は、認知症に対する知識や支援技術を高め、地域活動への参画を図り、運営推進会議や面会時のや電話での家族からの要望等から、必要とされていることを確認しながら取り組んでいきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年1回受けている外部評価での調査員のアドバイスや評価結果を基に毎月の会議の他、日常の業務中で確認しながら取り組んでいる	○	今後も評価結果を踏まえ、問題点について毎月の運営会議等で話し合い、改善して行きたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を行い、構成員からの意見や要望を取り入れながら、改善点に関しては、職員全体で会議の中で検討し、取り組んでいる		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給者の金銭管理をお願いし、定期的に入居者への訪問の受け入れを行っている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度に関しては、実際に利用している方がいない為か、全スタッフが理解しているとは言い難い	○	今後は、研修を行う機会や資料の配布などを行い、全スタッフが学ぶ機会を設けて職員の資質向上にも努めたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	在宅部門研修会の中で、虐待についての勉強会で学んだ事を日々の業務の中や職員個人で1年を通して、「介護業務マニュアル」のチェック表に定期的に記入し、自らが行っているケアが虐待に当てはまらないかを確認しながら行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時、施設見学を受け入れや問い合わせ等の受付を行い、利用者、家族の希望を考慮し、分かりやすい説明を心掛け、入退所時の不安の軽減に努めている	○	表面上だけでなく、内面的な部分についての理解を深めて、安心して利用して頂く事に努めたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当の職員が一人一人の利用者と相談や傾聴できる時間を設けて、随時、検討を行っている	○	随時、利用者の自尊心を傷つけないような声掛けを行い、納得して頂けるよう職員間で統一して行きたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している便りの内容に加え、個人の写真を掲載して、生活の様子を伝えており、加えて、随時、面会時や電話による報告を行っている	○	便りについては、今後も継続して発行し、面会についても可能な限り、なるべく多くの面会の機会を設けて頂けるような働きかけを行いたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他、電話や面会時の相談を受けれる体制を取り、迅速に対応している。また、年1回法人で、ご家族宛てに「ご意見・ご要望カード」を配布し、ご家族からの意見や要望、苦情の受付を行っている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中や毎月の会議等で、職員の意見を取り入れ、より良い運営を検討している	○	今後も職員の自主性を伸ばせるよう努力したい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	随時、個別の要望に沿って柔軟な対応を心掛け、可能な限り、勤務の調整を行い、職員間で協力しながら、対応している		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎年、法人内での人事異動があるが、職員間の十分な引き継ぎと各マニュアルを参考にして、職員の交代時の利用者への負担を軽減することに努めている	○	今後も各種マニュアルの整備の他、職員間の情報交換を行い、入居者の負担軽減に努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議での提案や在宅部門研修会への参加、外部の研修(自主研修も含む)への参加を行っている。また、参加時の資料も回覧し、スタッフ全員で質の向上が図れるようにしている	○	今後も勤務の調整を行い、可能な限り、研修への参加を勧めたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設との連絡調整を行いながら、研修会や連絡会への参加を行い、得た情報を当施設の運営について参考にしてサービスの向上に努めている	○	今後も勉強会や連絡会への参加を行い、サービスの質の向上に努めたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は、一緒に事務室で過ごし、ストレス軽減に努めている。また、個人的な相談や傾聴、職員相互の話し合い、その他の気分転換についての助言や親睦を深める為の交流の場を設けている		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人個人の仕事への取り組み方を常に観察し、毎月の会議での発言の機会や内部・外部研修への参加、専門誌の定期購読、資格取得への働きかけを行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時や事前面接時に本人の意思や思いを聞き、家族からの意見なども参考にしながら受け止める努力をしている。また、入居後には、本人との信頼関係を築けるように、日々の関わりの中で本人の意見や思いを聞くようにしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時、事前面接、契約時にこれまでの家族の思いや体験等を聞きながら、今後、より良い関係を持って共に不安なこと、心配な事、希望などをお聞きしながら共に支え合う仲間としての関係を築いていけるように努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態に応じてグループホームでの共同生活が可能かどうか、何が必要か探りながら、ご本人と家族の状況を踏まえ、必要に応じて他事業所の紹介やサービスについての情報を提供している		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの生活歴や経験を生かして共同生活の中でも一人一人が、日常生活の中に希望や役割ができるように食事の手伝いや食器拭き、テーブル拭き、洗濯物を干したりたたんだり、掃除をしたり、職員と一緒にゴミ捨てに行ったり、共に過ごし学び合う関係を築いている。しかし、入居期間が長くなるにつれ、介助が必要になったり、入居者間のトラブルにより状態の低下が見られる事が多くなっている	○	認知症の進行や身体機能の低下もあるが、少しでも日々の活動と一緒にやる事で今まで気付かなかった一面が見られるので、自主性を重視し、今後も常に行って行きたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居後、任せっきりの状態にならないように家族との連絡を密に行い共に連携・支え合って支援して行くように努めているが、ご本人と家族との関係によって、事実、面会の回数も少ない。通院をなるべく家族へお願いして、任せっきりの状態にならない様に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前までの生活歴を考慮した上で、面会時や電話等で、個別に日常の様子や本人の希望や今後の生活について理解と協力を頂きながら支援し、毎月発行している便りにより近況報告と写真を掲載している	○	今後は、ご家族の方に参加して頂けるような行事の企画も検討したい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会の制限を設けず、可能な限り、家族や馴染みの方々との外出を勧め、本人の気分転換に努めており、個人が今まで行っていた理容店や美容室を利用したり、友人や家族との外出で馴染みの店に行き、食事をしたりしてもらっている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の性格や他者との関係を考慮しながら、状況に合わせて、対応しているが、トラブル等には、スタッフが間に入り、穏かになるように努めている	○	入居者間での性格やF164や価値観の違い、入居者間での世話が過剰になり、トラブルになる事があるので注意し、見守って行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法人内の他事業所より、退所後の情報を得て、把握している	○	今後も関係機関との連絡調整を行い、把握して行きたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から希望・要望を聞き取り、状況に応じて対応しているが訴えの内容が困難な方に関しては、毎月の会議等で検討している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	法人内の利用していた他事業所や家族から生活歴や嗜好を聞き取り、ご本人自身やご家族からこれまでの暮らし方や習慣などを参考に、日々の生活を送って行く中で、お互いに信頼関係を築いて行けるように生活歴の把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活の中で、一人一人の過ごし方を総合的に把握している。個人記録や業務日誌を活用しながら一人一人のできる事、できない事、やりたい事等や生活リズムの把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、個人担当者とスタッフ全員から意見を出してもらいながら定期的に見直しを行い、本人が過ごしやすい介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	今まで、できていた事が認知症の進行や身体機能の低下により、計画を変更しなければならない場合は、本人・家族への相談を行い、計画の変更を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他に、日々の気付きや本人・家族からの希望をノートに記入し、職員全体で共有できるようにしている。また、内容をケアに行かせるよう会議で検討している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	消防署の協力により、避難訓練、救急蘇生法の講習への参加を行っている。周辺各施設に対して理解や協力を得る為、運営推進会議の中で防災計画の紹介や行事の紹介を行っているが、実際には、協力体制は不十分な感がある	○	今後も必要時に協力して頂けるよう協力内容の見直しと必要性を検討し、理解を得るよう努めたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	地域の理美容室へ出かけたり、訪問して頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	法人内の在宅支援センターと協力しながら、その都度、対応している		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として、内科と歯科の2医院を確保しているが、本人・家族の希望する医療機関を受診している。それぞれに定期的な受診を行い、受診時に情報提供表を作成し、情報伝達を行っている。また、法人内の看護師の応援も確保している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	随時、家族との相談を行い、理解していただきながら、かかりつけ医への情報提供表の提出を行い、必要時、精神科への紹介も行って頂いている	○	家族との連携を図りながら、認知症に対する理解を深めてもらいながら必要な医療機関への受診を伝えていく事も必要と思われる
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の在宅サービスを利用してから、グループホームへ入居している方が大半の為、異常があれば、随時、法人内の在宅サービスに配置している看護師へ、その都度、相談を行っている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の主治医、病棟の看護師長や医療相談員の方々と情報交換を行い、早期の退院の際の状況把握に努めており、職員もできる限り面会に行き、状況把握に努めている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できるだけグループホームでの生活を継続して欲しいが、本人や家族、係りつけ医と相談し、随時、本人・家族の意向を確認しながら今後の方針を決めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	他事業所や家族と共に入居者自身の安心と・安全が確保できるように話し合いを持ちながら連携を図っている。しかし、重度化や終末期に向けた支援をする場合には、設備や職員体制、職員の知識・技術共にまだまだ不足していると思う	○	現在の体制では、十分に対応できない事が多い為、学習や研修を続けながら、職員の知識・技術を高めながら、環境の整備も必要と思われる
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時に入所前の生活歴や日常生活の様子などを情報提供表を作成することで情報伝達を行い、環境の変化による本人、家族の不安軽減に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に合わせた声掛けや接し方を心掛けて、入居者の尊厳と権利を守りながら、プライバシー保護に努めている。言葉遣いの乱れが無いよう、常に職員間で意識しながら関わりを持っている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の押し付けにならないように個々に合わせた声掛けや接し方を心掛けている。訴えや思いを聞き漏らさないよう努め、落ち着いて話せる雰囲気作りに努め、支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人が思い思いに生活できるよう、日々の生活の中で、役割を見つけ出し、実行できる工夫をしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日常会話の中から本人の嗜好の確認を行い、家族からも希望・要望を聞き取りながら、個々の身だしなみやおしゃれができるように支援している。近所の理美容室へ行ったり、訪問して頂いている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好の調査を行ったり、職員と一緒に食事の準備、後片付けを個人の能力やその時の状況を見ながら行い、残存機能を活用して支援している	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の好みを把握し、周囲の入居者への配慮を考えながら、できる限り、叶うように努めている。また、喫煙されている方もいる為、周囲の方への配慮も行い、本人の体調を考慮しながら、提供している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に排泄パターンを把握し、他者とトイレが重ならないように気を付け、誘導のタイミングを見ながら、失禁が軽減できるように支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望や体調管理に留意し、生活習慣を把握しながら、ゆったりと気分良く入浴ができるように支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の日常の過ごし方や生活習慣を把握し、個々の生活パターンに合わせた休息をとってもらいながら、その人に合った睡眠が取れるよう、日中、適度な運動や外出などを行い、安眠できるように支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、これまでの生活歴や経験を活かして、できる事は、積極的に行ってもらっている。個人の能力や希望を取り入れて、それぞれに役割(食事の手伝い、後片付けなど)を持って頂くように支援している。また、日常的にレクリエーションや行事、散歩やドライブなどの外出を行い気分転換を行っている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布を持っている方もおり、買い物の際に支払いを行って頂く場合がある。家族と連携しながら、紛失やトラブルの防止に努めている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のゴミ捨てを兼ねた散歩等への声掛けを行い、なるべく室内にこもる事のないように職員との外出を行っている。中には、集団での生活を好まず、室内にいる事が多い方もおられるが、本人の希望を考慮しながら、ご家族と一緒に外出を促し、希望に応じて対応している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者からの希望や訴えがある場合には、できる限り叶うよう努力している。時には、帰宅願望について、家族へ相談し、協力を得ている。また、ドライブを企画し、外出の機会も作りながら支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力を得ながら、個別に支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の制限を設けず、気軽に訪問できるような環境作りを心掛けている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員全体で理解しており、拘束を禁止している。その中で、状況の安全・安定に向けたケアを行っている	○	今後も講習・研修会等へ参加を行い、職員の意識の統一を図りながらケアにあたって行きたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	見守りや入居者の行動を把握する事で、鍵をかけることなく様子観察を行えている。帰宅願望がでる雰囲気を感じ、気分転換を図りながら、ご家族への連絡を行い、連携している。入居者の居室の鍵については、入居者で希望がある方のみ、必要時、使用している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在確認ができるように職員間の連携強化に努めている。特に夜間は、定期的な巡回(約2時間毎)で在室状況を確認し、安全管理を行っている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や薬は入居者の目に触れないよう配慮している。その他は、入居者一人一人の状況に合わせて対応している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人個人の危険度合いを職員が把握し、日々の見守りを行っている。また、ひやりハットや事故状況報告書を作成し、職員間で確認を行うと共にリスクマネジメント委員会において、再度、検討し、全職員が事故防止への意識を持てるように努めている。加えて防災計画に沿った講習への参加と緊急時マニュアルを作成して、緊急時に備えている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルの理解と周知、いつでも使える場所に置き、対応できるようにしている。また、防災計画で企画している救急蘇生法の定期的な講習を受講している		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画に沿った避難訓練を行っている。避難訓練や消火訓練の際は、消防署職員からの指導を受けている。	○	今後、訓練の際には、地域の方々への参加をお願いして行きたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居者一人一人のリスクに対して、見直しを行い、安心して過ごして頂けるように支援している。また、家族との連絡を密に行い、本人の現状から起こり得る危険性についての理解を得ている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックに加え、本人からの訴えや様子を観察し、異変や気付きは、速やかに職員間で話し合い、法人内の看護師へ報告し、家族への通院依頼をしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を見ながら、職員全体で数量や効果を理解しており、誤薬防止の為に、服薬まで、数回のチェックと服薬時に名前を呼びながら、内服を確認している。万が一、誤薬した場合、係りつけ医、看護師に相談し指示を仰ぎ、経過観察、見守りをしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量や食事摂取量の把握と適度な運動ができるよう、対応している。また、排泄チェック表を作成し、個人の通院時、家族、かかりつけ医師への情報提供を行っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがいや歯磨きを促し、口腔ケアの必要性を確認しながら、なるべく自力で行って頂きながら、支援している。また、口腔ケアの勉強会へ参加し、得た知識を実践している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提供する食事内容の一覧表を作成し、個人に合った食事量を提供している。また、摂取量が少ない場合は、職員間で引継ぎを行い、様子観察に努めている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルの作成を行い、法人内の看護師と協力しながら、毎日の生活の中で手洗い、うがい等への徹底に努めている。インフルエンザの予防接種については、入居者・職員共に全員が毎年摂取している。感染症が流行する期間、面会者への手洗いの呼び掛けを行ったり、ご家族へは、便りにて周知している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の際の職員、入居者の手洗いや使用した調理器具の洗浄・消毒、食材の賞味期限の確認を行い、衛生管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、整理整頓に気を付け、必要の無い物は安全の為に置いていない。風除室前の花壇には、花を植えている。風除室に喫煙場所を設けており、喫煙者の方は、外を眺めながら喫煙する事ができる	○	現在、風除室で喫煙をしている方がおられ、臭いが気になる為、喫煙場所の変更も必要と思われる
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を常に意識して、幼稚になりすぎないように季節感があるような装飾や花を飾ったりし、和やかな雰囲気空間を作っている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで仕切りを作り、独りになれ+A48の空間を作っている。また、居間と食堂を椅子で仕切り、ゆっくりとテレビを見たり、団欒できるスペースを作っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から使用していた馴染みの物を以前のように使って頂くように家族へ依頼し、衣類はもとより日常品も使い慣れたものを継続して使ってもらえるようにしている。また、各入居者が思い思いに過ごせる空間であるように支援している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排泄後の換気や消臭スプレーの使用により、臭いへの対策を行っている。居室の温度調整に関しては、一人一人に合わせて行っている。また、自然の空気も感じられるよう窓を開け、換気をまめに行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全の為、廊下やトイレなどに手すりの設置やトイレの場所を知らせる張り紙を壁に貼ったりしている。また、歩行の妨げにならないように常に整理整頓を心掛けている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の生活の中でわかる事、わからない事の見極めを行い、わかる部分には、介助・支援で補いながら少しでも自立した生活に近づけるよう努めている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物のデッキにプランターで育てている花や野菜と一緒に観賞したり、建物裏にある畑の野菜と一緒に収穫できる環境を整えている	○	段差があり、危険な為、解消が必要

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・今年度から、施設の裏側に畑を作って頂き、作物への水掛けや収穫を行っている。これまでの経験を活かして、畑の作物の育て方を聞いたりしながら、一緒に作業し、収穫の喜びを味わいたいと思う。また、日々の生活習慣をリハビリとして生活支援を重視した介護を提供できるよう取り組んで行きたい。